【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第２区分
【発行日】令和5年4月13日(2023.4.13)

【公開番号】特開2022-119271(P2022-119271A)
【公開日】令和4年8月17日(2022.8.17)
【年通号数】公開公報(特許)2022-150
【出願番号】特願2021-16260(P2021-16260)
【国際特許分類】
Ｂ２２Ｃ　9/06(2006.01)
Ｂ２２Ｃ　9/10(2006.01)
Ｂ２２Ｃ　9/22(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ２２Ｃ　9/06　　Ｃ
Ｂ２２Ｃ　9/10　　Ｔ
Ｂ２２Ｃ　9/22　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】令和5年4月5日(2023.4.5)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
上型と下型と横型と中子とを備える鋳造用金型であって、
前記中子は、本体部と、前記本体部に連続する幅木部と、を有し、
前記下型は、前記幅木部を収容する収容部を有し、
前記幅木部を、前記収容部の内側面に向かって付勢する付勢部材を、さらに備える、
鋳造用金型。
【請求項２】
請求項１に記載の鋳造用金型において、
前記付勢部材は、一端が前記幅木部に接触するピン部材と、前記ピン部材における前記幅木部と接触する側とは反対の他端側に配置され、前記ピン部材を前記幅木部に向けて付勢するバネと、を有する、鋳造用金型。
【請求項３】
請求項２に記載の鋳造用金型において、
前記ピン部材の前記一端は、半球状の外観形状を有する、鋳造用金型。
【請求項４】
請求項２または請求項３に記載の鋳造用金型において、
前記下型には、前記ピン部材の一部を収容する横方向の第１貫通孔が形成され、
前記第１貫通孔に連続し前記ピン部材の一部と前記バネとを収容する横方向の第２貫通孔が形成され、前記下型を横方向から支持する板状部材と、前記第２貫通孔における前記第１貫通孔に連続する側とは反対側の開口を封止するキャップ部材と、をさらに備える、鋳造用金型。
【請求項５】
請求項２から請求項４までのいずれか一項に記載の鋳造用金型において、
前記収容部と前記幅木部とのうちの少なくとも一方には、前記収容部の内側面と前記幅木部の外側面との隙間においてクリアランスの大きさが前記隙間における他の部分の大き

さよりも小さい１つ以上の小クリアランス部を形成するための突出部が形成されている、鋳造用金型。
【請求項６】
請求項５に記載の鋳造用金型において、
前記本体部は、長手方向を有する外観形状を有し、
前記幅木部の上端部は、前記本体部における前記長手方向の一端において前記本体部に接続され、
前記隙間のうち、横方向における内側であって縦方向における下側と、横方向における外側であって縦方向における上側と、にそれぞれ前記小クリアランス部を有し、
前記隙間のうち前記横方向における外側であって縦方向における上側の前記小クリアランス部は、前記収容部に形成された前記突出部により形成され、
前記ピン部材は、前記隙間のうち前記横方向における外側であって縦方向における上側の前記小クリアランス部を通って、前記幅木部に接触する、鋳造用金型。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
横入子５０は、上型４０と下型６０とに挟まれて配置され、シリンダヘッドの上方側端部を形作る。板状部材３０は、鋳造用金型１００において－Ｘ方向の端部に配置されている。板状部材３０の＋Ｘ方向の面は、下型６０の－Ｘ方向の端面、および横入子５０の－Ｘ方向の端面に接している。板状部材３０は、横入子５０および下型６０を横方向から支持する。板状部材３０は、横入子５０に連結されており、連結板とも呼ばれる。横入子５０と板状部材３０とが連結された状態の部材を横型と呼ぶこともある。板状部材３０には、厚さ方向に貫通する段付きの第２貫通孔３１が形成されている。第２貫通孔３１は、＋Ｘ方向に位置する径が小さな部分（小径部）と、－Ｘ方向に位置する径が大きな部分（大径部）とにより構成されている。第２貫通孔３１には、付勢部材２０の一部（後述のピン部材２１の後端部および後述のバネ２３）が挿入されている。第２貫通孔３１は、上述の下型６０に形成されている第１貫通孔６３と連通している。